

崩れない学級づくり ～特別支援教育の視点から～

桃山学院教育大学
特別支援教育士SV・学校心理士・公認心理師
松久 眞実

1

気になる子どもたち

- 発達障害のある子ども
- 愛着の崩れのある子ども(お家で大事にされていない子ども)
- 精神医学的な課題のある子ども(社会不安障害・適応障害・統合失調症・HSC等)

2

数年前の学級崩壊状態

- 休み時間は1分も目が離せない
- 暴言・暴力・けんか・トラブル
- 不登校児童
- 授業中の唐突で終わらないおしゃべり
- 昼からの授業は集中力が続かない
- 朝礼で並べない 体育はトラブルだらけ
- 対教師暴力

3

達人と私は何が違うのか

4

5

私の問題点

- フレンドリーな教師で、子どもとの距離を縮めて仲良くなるのは得意だが、きちんとした指導が行き届かないタイプ
- 学級が機能しなくなると、真面目に頑張っている子ども(中間層)が、ふざけている子に同調する。同調とまではいかない子どもたちも、授業が進まないことや、先生が手のかかる子ばかりに目を向けて自分達を見られないことにストレスを溜めるようになる。支援の必要な子どもは、クラスに居場所がなくなる。
- 教師がリーダーになっていない。そもそも子どもが「誉めてほしい」教師になっているか。

6

子どもも先生を見ている (川上康則, 2018)

- 先生が誉めているつもりでも、子どもは「この先生に誉められても、たいして嬉しくない」と感じている。
- 前提として、誉めることが機能する信頼関係の構築が必要。
- 信頼できる教師とは①自分を認めてくれる人②自分のことをわかってくれる人③苦しい時に自分を見捨てなかった人

7

世界最高の学級経営 ～成果を上げる教師になるために～ ハリー・ウォン/ローズマリー・ウォン 著

- 授業UD研究 第4号 2017.NOV p.50-55
- 桂 聖先生が著者 (Harry K.Wong/Rosemary T.Wong) にインタビュー
- 学級経営に関する理論的体系を示している本
- 私の学級経営の問題点をあばきだす

8

Wong & Wongが伝えていること

- クラスが組織化して安定していることが必要
- 学級崩壊しているクラスでは、障害のある子どもは居場所がなくなる
- ブレない「一貫性」のあるルール
- 優れた教師に必要なのは「学級経営」「授業力」「子どもへの前向きな期待」
- 成果をあげる教師は「イニシアティブ」を取り怒鳴ったり、威圧的に従わせようとしない

9

手順(段取り)

- 今からすることは、「中庭にあるアサガオ鉢の水やり」「アサガオの観察日記」「懇談会で保護者にアサガオ鉢を持って帰ってもらうため、廊下に並べる」
- ペットボトルとバインダーを持って中庭に降りる→水やり→バインダーに観察日記を挟んで、記録する→アサガオ鉢を教室まで持って上がる

トラブルが起こるとしたら、どんなトラブルが想定されますか？

10

- 黒板の文字をノートに写さない。
- 宿題を忘れてくる。
- おしゃべりを止めない。
- 指示に従わないばかりか「やりたくない」「うざい」と悪態をつく。

特別支援教育の視点から、 子どもの行動の原因を探る

11

表出している言動で判断しない

- 「やりたくない」「めんどくさい」「うざい」
→教師の注目を引きたい
→勉強がわからない
→「不真面目にしているから勉強できないんだ」とアピール
→頑張っても、どうせ失敗する
→弱みを見せられない
→素直に従うのは体裁が悪い

12

子どものために指導しても
反抗されることが重なりと...

- | | | | |
|-----|-----|-----|-----|
| 怒り | 悲しみ | 不満感 | 緊張感 |
| 無力感 | 疲労感 | 徒労感 | 恨み |
| 焦り | 不安 | 諦め | 罪悪感 |
| 孤立感 | | | 憂鬱 |
| 絶望感 | | | ひがみ |



(西田,2016)

13

児童心理治療施設 宮田雄吾

ちなみに“愛情、だけを頼りとする人は、虐待された子どもの支援を仕事にしない方がいい。愛情は彼らの攻撃の前にあつという間に目減りしてしまい、そういう職員ほど、すぐに退職して子どもを捨てる。

(大村椿の森学園:元情緒障害児短期治療施設)

14

学級経営のフェーズ

秩序フェーズ

ルールの確立

始動期

育成フェーズ

児童生徒の参加

展開期

成長フェーズ

自主性の育成や自治

- 全員の子どもが楽しく「わかる・できる」授業
- 特別支援教育の理念や視点を教科教育に導入
- 焦点化・視覚化・共有化(桂 聖,2010)

15

3つのフェーズ

秩序

- 学級の土台や秩序を作る
- 崩れない学級経営

育成

- 子ども同士のつながり
- 教師主導から子ども主導へ

成長

- 子どもの能力を伸ばす
- 子どもの自主性に任せていく

16

秩序フェーズの3本柱

- ①叱る基準を明確にする
- ②教室の刺激を減らす
静寂の時間の投入
- ③中間層を味方につけ、誉めながら支援の必要な子どもを巻き込む

17

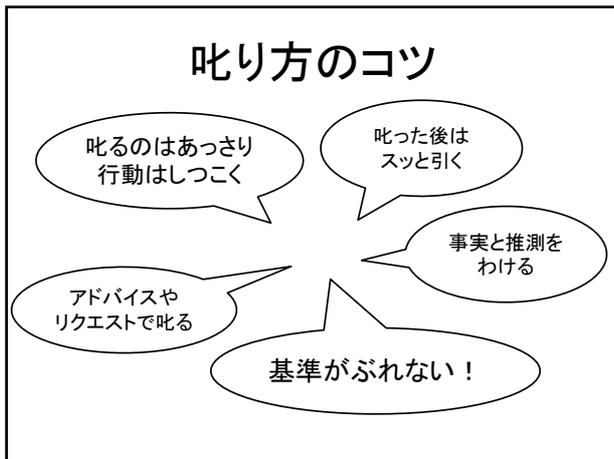
森レベル・林レベル・木レベル(①)

森レベル...人の心と体を傷つけた時

林レベル...できることをしない時

木レベル...忘れ物や給食を残した時など

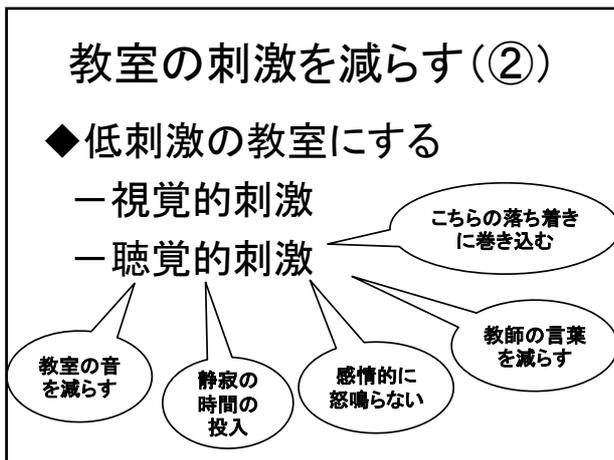
18



19

- ### 興奮させると...
- ますますしゃべる
 - 教室が騒がしくなる
 - 集中できない
 - トラブルを起こす
 - 教師の話は耳に入らない
 - 教室から逃げ出す子どもが出てくる

20



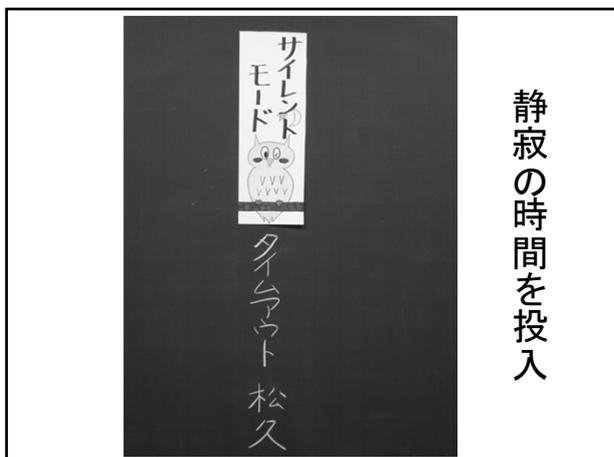
21

『静寂の時間』を増やす

※教室の音を徹底的に 減らす...音は音を呼ぶ

22

22



23



24

言葉を減らす

◆簡潔な短い言葉

長い説明はかえってありがた迷惑

◆挙げ足を減らす

◆教室が静かになる

◆イライラしない

◆しんどい時は、言葉は無用

25

25

減らした言葉は非言語・視覚支援で補う

非言語を使う

アイコンタクト・ジェスチャー

静かな時間が増え、同時に多くの子どもに多くのメッセージが送れる。
机間指導も非言語で

26

中間層を味方につける(③)

- 「優等生」「中間層」「逸脱層」に分かれている(吉田順,2018)
- 中間層を味方につける
- 授業を進める
- 楽しそうに演技する

27

子どもへの前向きな期待

- あなたが、子どもについてレベルが低い、平均より出来が悪く、覚えもよくないと思っていたとしたら、その通りの結果になります。あなたの考えが子どもに伝わるからです。
- 子どもの能力が高い、平均より出来がいい、覚えもいいと思っていたら、その通りになります。あなたの期待が子どもに伝わるからです。(Wong & Wong)

28

優しさか、厳しさか

- 優しさだけを優先させた学級では、だんだんと秩序が乱れ、知らず知らずのうちに怒鳴り声をあげてしまう。優しく接しようと決めていたのに、理想からどんどん遠ざかる。
- まずは集団の秩序を優先させる。いったん崩れてしまうと、なかなか立て直せない。優しくするのは、あとからいくらでもできる。本当に優しい先生ほど、秩序を優先する。まず、全体に網をかけて、安全で安心できる学級を構築する。
- 「温かさ」と「甘やかし」の混同や、「思いやり」と「なれ合い(迎合)」をはき違えてはいけない。

29



ぴかびり(ひかひかびり玉)

30



31

ソーシャルスキル

クラス集団指導 (周りの子どもを育てる)

32

子ども集団が主体的に組織されるために

- 最初にルールが確立するまでは、子どもに丸投げしてはならない。自主性の意味をはき違えて、子どもに権限を渡してしまったり、反対に規律違反を見逃したり、見て見ぬ振りをして責任回避をすると、崩壊への道をたどる。
- 学級の秩序が整い安全が確保されると、子ども達は自然と友だちと親密になり、かえって自由度が増す。反対に秩序のない学級では、いじめが起こり、支援の必要な子どもがターゲットになり居場所がなくなることも少なくない。他の子ども達も、そんな不安な状態では学級の取り組みや行事に参加しようと思えない。(向井義、2004)

33

私たちが願っていること

- 支援の必要な子どものしんどさを、周りの友だちに伝えて、理解してもらおう
- 障害の特性について説明する・カミングアウト
- 周りの友だちが「助けてあげよう」「優しくしてあげよう」「手伝ってあげよう」

34

いつもあなたを見ているよ(赤坂真二,2011)

- 「好きだなあ、いいなあ」と、そのまま声をかける
- 変化を見逃さない
- 努力や過程を見る
- 気付いて嬉しそうにする
- 感謝する: やって当たり前と考えない
- 感動する・笑顔でいる
- ねぎらう
- アイコンタクト
- 誕生日を祝う
- サプライズレター・年賀状・暑中見舞い

35

毎日子ども一人一人に声をかける

- 朝、教室に入ってきた子どもに「おはよう！」
- 個人作業(机間指導)
- らくらく日記

終わりの会のあと、日記に目を通して一言声をかけて、握手する

- 連絡帳に「聞いてサイン」

教室移動や休み時間、一人である時に、そっと声をかける

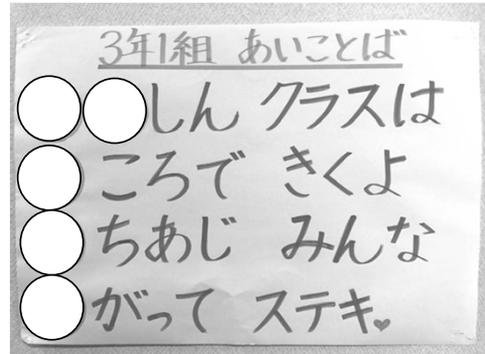
36

らくらく日記

- ①小さなミニノートを準備する(A4ノートを半分に切る)
- ②終わりの会で、今日の振り返りや嬉しかったこと、困ったことを書く(または給食を食べ終わってから)
- ③3行または、3分書く
- ④終わりの会の後、先生に見せる
- ⑤担任は黙読しサインをしてから、一言かける
- ⑥握手して、さようなら

37

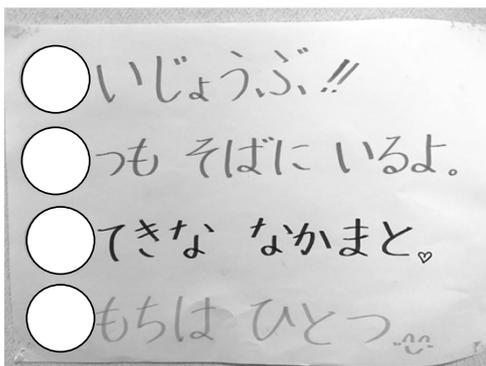
あい言葉1



藤林先生(堺市)

38

あい言葉2



藤林先生(堺市)

39

好意に満ちたクラス作り

- 好意に満ちた語りかけ…子どもを信じる・言い分を聞く・責めない
- 悪意に満ちた語りかけ…子どもを疑う・決めつける・責める・嫌みや皮肉を言う
- アイビリーブ(アイメッセージ)

悪意に満ちていたら→ギスギスしたクラス
好意に満ちていたら→暖かいクラス

40

励ましパワーワード(阿部利彦,2020)

- 「99%負けとわかっていても、オレはあきらめん！1%にかける！」「次のチャンスがオレには見える」
- 「0%ではないんだな。よし、やるだけやってみようぜ」(かいけつゼロリ)
- 「戦わない勇気というもあるのだ」(忍たま乱太郎)
- 「失敗したって何かは残る。無駄なものなんて何もないさ」(ポケットモンスター)

41

気がラクになるセリフ

- 「まっ、いいか」
- 「わざわざじゃないかも」
- 「また今度ががんばろう」
- 「ここまでよくやった」
- 「友だちがきっと助けてくれる」
- 「別にいいや」
- 「自分なりにできた」
- 「怒るほどじゃないかな」
- 「これでも最悪じゃない」
- 「なんとかなるよ」

42

「ぼくのおまじない」の効果

●**身体全体で自己コントロール力を高める!**
 深呼吸を初めて数週間後、休み時間、ブランクのとりあいなどで、トラブルが多かったA君が、「さっき深呼吸で止めたよ!」と、深呼吸をして我慢できたことを報告に来た。他の子にも聞いてみると、使ったと話している子がいた。意識して深呼吸をすることを習慣化することで、自然に使えるようになるようだ。

●**深呼吸と「ほんわか言葉」をセットで!**
 深呼吸が、出そうになった「いがいが言葉」にストップをかけ、「ほんわか言葉」に変換して出力する変換器のような働きを果たした。深呼吸で「止める」だけでなく、深呼吸と「ほんわか言葉」をセットすることで、より行動化できた。また、「いがいが言葉」が出やすい場面を想定して、深呼吸で「ほんわか言葉」に変えるイメージトレーニングをすることも効果的だった。

●**学級全体の活動の中では、深呼吸とおまじないの言葉をセットで習慣化!**
 おまじないの言葉を学級の合い言葉にすることで、学級全体に広めやすい。体育や学級活動のゲームなどの前に、クラスのおまじないをセットにして深呼吸をしてから始めると、ゲーム中のトラブルを防ぎやすかった。家庭でも、ゲームをしているときに、負けて悔しい思いをしたときに、「勝も負けるも時の運」といながら、感情をコントロールできたという子もいた。

使える子どもが増えました

さっき深呼吸で止めたよ

腹が立ったら息を吸ってるねん。なんかわからんけど、落ち着くねん

息をすって落ちていてから、こめんねって言った

43

一日のはじまりのおまじない

♪にこにこにっこり
 ♪みんななかよし
 ♪ともだちふやそう
 ♪笑う門には福来る

いいことありそうな一日の始まり。

ゲームの前のおまじない

♪負けるが勝ち
 ♪勝つも負けるも時の運
 ♪正直は一生の宝

トラブルの多い子は、勝ち負けにこだわることも多い。ルールを守らなったり、負けると怒り出しりするのを自分でコントロールできるように!

自分で使える子が出てきました。

腹が立ったら息をすってるねん。そしたら、なんかわからんけど落ち着くねん。

先生、さっき深呼吸で止めたよ!

昨日、お兄ちゃんとけんかしたとき、使ったよ!

ブランコの取り合いになったとき使ったよ!

息を吸って心を落ち着かせてからこめんねと言った。

どきどきするときのおまじない

♪失敗は成功の元
 ♪練習はあなたを裏切りません。

不安感の強い子は、失敗しがち。自分を励ます言葉で余裕を!

44

ことわざカルタ



手はひぎの上!
 上の句を聞いているよ

45

著書: あったかシリーズ 明治図書

高山 孝子 著
松久 真実 編
中田 紀子 監

あつたか クラスづくり

あつたかシリーズ 1

あつたか あだか絆づくり

あつたかシリーズ 2

松久 真実 編
あつたかシリーズ 3

あつたか 仲間づくり

あつたかシリーズ 3

46

46